

放置しないで！

妊娠中の高血圧。

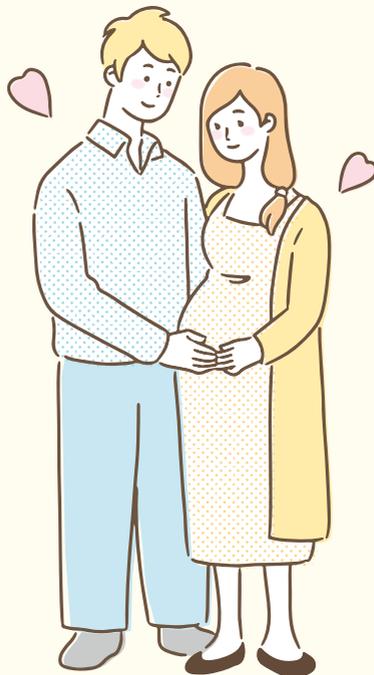
妊娠中に特に気をつけたい病気の中に、
「妊娠高血圧症候群」という病気があります。



監修：日本妊娠高血圧学会

お腹の赤ちゃんとお母さんのために、 「妊娠高血圧症候群」に気をつけよう！

「自覚症状がないから大丈夫」と思って放置しておくと、
お腹の赤ちゃんやご自身の身体に、悪い影響を与える病気があります。
たとえば、「妊娠高血圧症候群」という病気もそのひとつ。
妊娠高血圧症候群は自覚症状がないことも多いのですが、
「急にむくみがひどくなった」「頭が重い感じが取れない」等の症状が
あれば、早め早めにかかりつけ医に相談し、適切な対処を心がけましょう。
まずは、セルフチェックで、今のご自身の状態を把握しておきましょう！



さっそく、セルフチェックしてみましょう！

- 年齢が高い(35歳以上)
- 家族(特に母や姉妹)に高血圧の人がいる
- 肥満である
- もともと高血圧症や腎疾患、糖尿病などを持っている
- 初めてのお産(初産婦)である
- 以前に妊娠高血圧症候群になったことがある
- 双子などの多胎妊娠である
- 生殖補助医療*からの妊娠である

*Assisted Reproductive Technology:ART

チェックリストの項目に当てはまる方は「妊娠高血圧症候群」という病気のリスクが高いとされています。その病気について、今のうちに知っておきましょう。



「妊娠高血圧症候群」ってどんな病気？

妊娠中から産後12週までの間に高血圧になる病気の総称で、以前は「妊娠中毒症」とも呼ばれていた疾患です。単に血圧が上がるのが問題なのではなく、ときにお母さんも赤ちゃんも身体の状態が急に悪くなり、命に関わる危険性があることが問題になっています。

妊娠中の高血圧とは？

収縮期血圧 140mmHg以上

あるいは拡張期血圧 90mmHg以上



妊婦さんの
約20人に1人が
かかると
言われています！

「妊娠高血圧症候群」は4つの病状に分類されます。(病型分類)

1. 妊娠高血圧腎症

妊娠20週以降で初めて高血圧が認められた妊婦さんで、さらに蛋白尿が出る、血液検査で腎臓や肝臓の機能が低下している、凝固障害がみられる、赤ちゃんの発育や状態が悪い(子宮胎盤機能不全)などの臓器障害が認められる場合

2. 加重型妊娠高血圧腎症

妊娠の初期(20週未満)から高血圧のある妊婦さんに、妊娠高血圧腎症のような臓器障害がみられた場合、または腎臓の病気がある妊婦さんに高血圧が認められた場合

3. 妊娠高血圧

妊娠20週以降に高血圧だけが認められる場合(臓器障害は認められない)

4. 高血圧合併妊娠

妊娠前または妊娠の初期(20週未満)から高血圧がある場合(臓器障害は認められない)

注意すべきポイント！

特に気をつける必要がある「妊娠高血圧腎症」は、「妊娠高血圧症候群」の約60%程度に見られます。

どんな症状がでるのか知っておこう！

お母さんの身体への影響とは？

- ・ 高血圧や蛋白尿
- ・ 肝臓や腎臓などの臓器機能障害
- ・ 血小板(出血を止める細胞)の減少
- ・ 子癇(しかん)と呼ばれるけいれん発作
- ・ 脳出血などの脳血管障害
- ・ 常位胎盤早期剥離*(じょういたいばんそうきはくり)

*赤ちゃんが生まれる前に胎盤が子宮から剥がれてしまう状態。

自覚症状を感じにくいので、妊婦健診などで
しっかりチェックする必要があります！



赤ちゃんへの影響とは？

胎盤の働きが悪くなり、赤ちゃんに酸素や栄養が届きにくくなると、赤ちゃんの体重が妊娠週数と比べて小さい状態の「胎児発育不全」や、赤ちゃんに酸素がうまく届かず、子宮内で苦しくなってしまう「胎児機能不全」になる可能性も。そのような状態になると、早産で出産しなければならないこともあります。

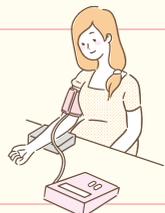
早産や胎児発育不全により赤ちゃんが成長しきれていないと、生まれてすぐに新生児集中治療室(NICU)への入院が必要になる場合があります。

最悪の場合は、赤ちゃんが亡くなってしまったり、大きな障害が残ることも。

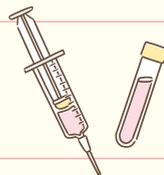


「妊娠高血圧症候群」ってどうやってわかるの？

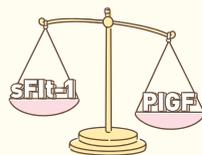
- 「妊娠高血圧症候群」の検査の基本は、**血圧測定**です。毎回の妊婦健康診査（妊婦健診）で血圧測定を行うのは、「妊娠高血圧症候群」にかかっていないかを確認するためです。また、尿蛋白が出ていないかも毎回チェックします。



- 高血圧の原因や病態の把握のために、血液検査が必要になります。赤ちゃんの状態も、超音波検査や胎児心拍数モニタリングなどで確認します。



- 最近では、近い将来に「妊娠高血圧腎症」が発症しないかどうかを、通常行う血液検査で予測するsFlt-1/PIGF比（エスフルト・ワン／ピー・エル・ジー・エフ ヒ）という検査も使用されています。



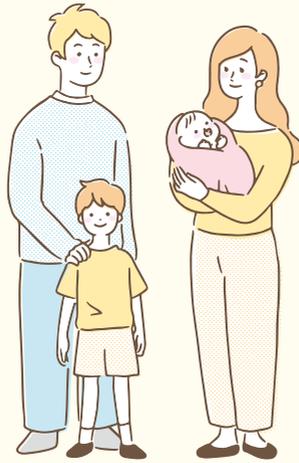
気になることがあったら

一度、かかりつけの産婦人科医に相談してみましょう！

どんな治療方法があるのか知っておこう！

「妊娠高血圧症候群」の治療の中心は、血圧を下げ、いろいろな臓器の障害や赤ちゃんの具合が悪くならないかを慎重にみていくことです。しかし、「妊娠高血圧症候群」が進行して妊娠を続けることが良くないと考えられた時には、たとえ赤ちゃんが早く生まれても妊娠を終わらせること、すなわち出産が一番の治療となります。健康的な食事や運動を意識したライフスタイルもつねに心がけましょう。





「妊娠高血圧症候群」についてもっと知りたい、 そして、「妊娠高血圧症候群」と診断された方へ。

妊娠中に「妊娠高血圧症候群」と診断された方は、出産後5年先、10年先に高血圧になりやすいことが近年になりわかってきました。

日本妊娠高血圧学会では、「妊娠高血圧症候群」と診断された方に向けた病気の解説や妊娠・出産、次回の妊娠の時に考えること、将来的な高血圧発症に対するサポートなど、さまざまな情報をホームページからお伝えしています。

患者さん向けのページでは、この病気のより詳しい解説や「妊娠高血圧症候群」と診断された妊婦さんの体験記も掲載しています。

こちらぜひご参照ください。

「妊娠高血圧症候群と診断されたことのある方へ」はこちらから
サイトURL: <https://www.jssshp.jp/patient/>





ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
〒108-0075 東京都港区 港南1-2-70